

## 「ウサギとカメ」の話

2021・5・24 校長 重枝一郎

みなさんは、「ウサギとカメ」の童話を知っているでしょう。あらすじは、かけっこをしてカメがウサギに勝つという信じられない話ですが、まず、なぜカメが勝ち目のない競争をしたのか、私は、不思議に思っていました。でもその理由は、ある人に教わってわかりました。

カメは「ウサギはウサギ、自分は自分。ウサギとの競争とかではなく、マイペースで、とにかく山のふもとのゴールを目指そう」という“目標”だったからです。カメの“目標”は山のふもとのゴール、“目的”は自分との戦いに勝つことでした。カメは、“目標”を定めて、全力で必ずやり遂げることで、夢を実現しようとしたのです。

いい話だね。でも・・・。

“目標”や“目的”を自覚することが大切であるというこの命題は、本当に正しいでしょうか？

私自身の教師としての若いころを振り返ると、サッカー部を勝たせたい、生徒の希望進路実現のために厳しく指導しようなど、その時々で“目標”はありました。しかし“目的”を強く自覚していなかったように思います。明確な“目標”や“目的”があって、努力していたというより、当時を振り返ると、一生懸命取り組む毎日がおもしろかったからだと思いません。

人には、大きく分けて、遠くを見て大きな目標や目的を掲げて挑戦する「鳥型人間」と、近くを見て小さな目標を見つけては一段ずつ登っていく「アリ型人間」がいます。私は「アリ型人間」でやってきたように思います。上る階段を探すときに、目標や目的で階段を選ぶよりも、楽しく実感を伴う毎日の方を選びました。その方がワクワクし、がんばれるような予感がしていました。ですから、必ずしも明確な目標や目的をもっている必要はないと考えています。

・・・でも・・・

この私の考え方も疑ってください。

つまり、何が言いたいかというと、正解を教えてもらおうという「癖」は捨てようと言いたいのです。みなさんのこれからに正解なんてあるかどうかわからないのですから。それぞれが自分で考えて決めることが大切だと言いたいのです。

じゃあ目標なんていらないと、短絡的に思う人が今度はいるかもしれないのでもう少し語ると・・・

注意してほしいのは、目標や目的を自覚することが大切であるか、あるいは必ずしも明確な目標や目的をもっている必要はないか、という二者択一から選んで終わりという安易な道を選ばないでくださいということです。

なぜ目標や目的を自覚することが大切だと思ったのか、また、なぜ必ずしも明確な目標や目的をもっている必要がないか、この2つの“なぜ”という問いのどちらにも答えることのできる答えを見つけてください。前提を疑い、二者択一を疑った上で、自ら問いを設定し、自ら答えを提案できる人になってください。「私はこうやっていきます」と・・・

さて、私たちが知っている「ウサギとカメ」の話は「残念なウサギ」という話になってい

ますよね。

この話の続きを知っていますか？

「カメに負けたウサギ」というレッテルを貼られたウサギは、みんなからバカにされます。ウサギは「失敗から学んで見返してやる」と決心します。しかし、そうは簡単には目標と目的をもてるようにはなりません。もう一度カメとかけっこをして勝っても、レッテルは消えません。

ウサギは悩み苦しみました。でもウサギはウサギのままでした。試験勉強は一夜漬け、仕事についても明日やれる仕事は明日に回して、今日は遊んでしまいます。

そんなウサギでしたが、明日に回すと間に合わない仕事は、徹夜してでも終わらせました。集中力と瞬発力だけが、ウサギの取り柄でした。

ウサギは年をとっていきました。徹夜ができなくなり、明日に回してもやれた仕事が、今日から始めないと終わらなくなりました。

ウサギは少しだけ生き方を変えることにしました。明日があると考えのをやめて、今日しかないと考えすることにしました。明日やれることは何かと考えるのをやめて、すべてを今日やることにしたのです。今を楽しむという生き方は変えられないので、今日を精一杯生きることになりました。

ウサギは悩まなくなりました。今までは、明日に回していた仕事のことが気になって、今日を十分楽しめませんでした。今は心おきなく今日を楽しめます。

ウサギは今、会社でそれなりの役職についています。若手社員にはウサギもカメもいます。どちらのよさもわかる上司となって、活躍しているようです。

さて、ウサギは失敗から学んだといえるでしょうか？

みなさんに問いかけて、この「ウサギとカメ」の話を終わります。何かスッキリしないと、思いません。それでいいのです。正解を求める癖を捨ててほしいのですから・・・

今週は中間テストに始まり、学年によっては模試もある、テストウィークのような1週間ですね。みなさん大変でしょうが、ちょっとだけ・・・

私は、テストのように、与えられたタイミングで与えられた場所で、ひと花咲かせられる人になってほしいと思っています。これがどんな環境でも楽しめる「前向きになれるク

セ」をつけていくことにつながります。そういうクセをもっている人は充実した、幸せな人生を送れると思います。

もう一つ。テストや部活の試合の時など、「私の本気が見てみたい？」とか冗談で言ったりしたことはないですか？「**本気の自分**」ってどんな感じなんだろうって、自分自身知っていますか？「**本気の自分**」を自分自身が知りたいと思うことは、とても大事なことだと思います。何かにチャレンジする、それだけでは「**本気の自分**」ということには、実はなっていないのです。やっているうちに、必ずうまくいかないことが出てきます。やってみて思うようにならないとき、**そこからが「本気の自分**」ということになるのです。なんでも勝負はそこから。「**本気の自分**」が見られるのは、そこからだと思います。テストが終わった後に、次のテストでは自分をもっとこうなっていたいというワクワク感をもてる

ことを期待しています。君たちの本気を見せてくれ。

聴いてくれてありがとう 以上で校長講話を終わります